

## メタルドゥ 東京支店がヤード併設の新拠点に移転

### 即支払など柔軟なサービスで東日本の営業を強化

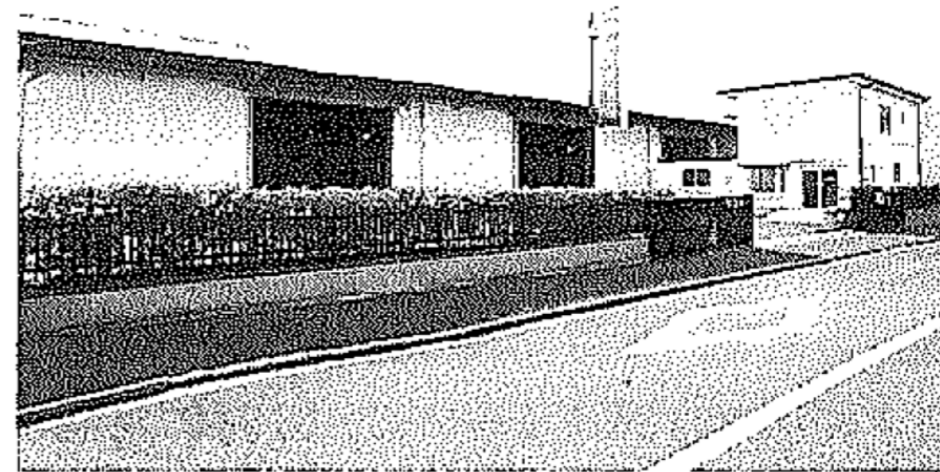
レアメタルのリサイクラー大手メタルドゥ(藤田國廣社長)は東京支店をヤード併設の新拠点に移転し、9月1日から業務を始めた。スクラップ配送はヤード併設により、受入れ時間の拡大や直接持込みも可能となるほか、東京で検収し即支払ができるなど、スクラップ発生元となる企業の要望に柔軟に対応できる。大阪や神戸に拠点をもつ同社は名古屋や北陸から西で積極的に営業を行ってきたが、関東や東北の営業が手薄となってきた。東京支店は検収の体制を整えることで、2年後には現在の月500tの取扱量を2倍の1,000tに増やすことを目指す。

#### これまでの課題は売却決定から代金支払までの時間

東京支店の営業体制はこれまで、トラック輸送にまとまった量が必要なため、一定量まで溜めてから集荷し関西に配送するなど、スクラップ移動に時間がかかってきた。関西に到着した後スクラップの検収作業を始め、地金相場に基づいた価値を決め代金の支払を行ってきた。このため、発生元企業がスクラップの売却を決めてから支払まで時間がかかり、タイムラグの間に地金相場が変動する問題もあった。今後は東京で検収しすぐに支払える体制を整えることで、発生元企業のキャッシュフローが改善できるメリットがある。

#### 東京は営業拠点の位置づけで選別や原料配送は関西に

東京支店の営業時間は午前9時～午後6時だが、事前に連絡を受ければ、早朝深夜など早降ろしや遅降ろしなどに



メタルドゥ  
東京支店

も対応する。ヤードへの直接持ち込みもできる。スクラップ発生量が月数t単位でないと、引取らなかったものの、数百kg単位の小ロットでも取扱うなど、緻密な営業を目指す。発生元となるメーカーは、コンプライアンスなどの問題から環境物質の適正処理も求めており、一部の処理を東京で行うことは顧客への説明責任面でも有利になる。東京支店は検収など発生元企業への営業拠点の位置づけだが、取扱量の拡大によっては周辺地にヤードを拡張していくことも検討する。営業体制は現在の4名から5名に増やし、検収作業は3名、事務は2名の計10名で行う。

同社は大阪や神戸の拠点で1日50～60tの検収能力をもち、検収スピードは東京拠点の3倍ほどある。このため、大ロットの検収は関西に回すなど、既存設備は効率的に活用。検収後の選別やスクラップ原料の配送などは、今後とも高度な設備を保有する関西で行う。

メタルドゥ東京支店(支店長・羽野得吉氏) 江東区新木場3-4-12 TEL:03-3522-5658 FAX:03-5569-5522